

農業関連の春先除雪、3月時は市が独自支援へ

上越市はこのほど、農業関連の春先除雪について新たな支援をしていくことを決め、23日に開催される臨時議会に関連経費を含んだ補正予算を提案します。

これまで春先除雪については、新潟県の緊急消雪促進対策事業を活用し、4月1日を基準日として、基準積雪深が100㌢以上のところを対象にしてきました。しかし、関係農家などから、「4月になってからの除雪では遅すぎる。もっと早くしてほしい」という声が強くあがっていました。

今回、市は、現行の基準日に加え、新たに3月15日時点の基準日を設定することで、基準日以降3月末までの除雪支援を可能にしました。

新たに支援対象となるのは、3月15日の基準日に積雪深が180㌢以上のところ です。

育苗用地については、除雪作業着手時点の積雪深が150㌢未満のところでは基準事業費の上限額が10㌦あたり5万9000円、150㌢以上のところが9万6000円となっています。いずれも支援額はこの50%以内となります。

また、育苗用地までの耕作道の機械除雪については基準事業費が1kmあたり6万7000円で、支援額は100%以内となっています。

今回の改善は農業者の春先除雪支援を強化する重要な一歩です。関係地域の農家などとともに春先除雪支援の改善を求めてきた者の一人として、大いに評価するものです。



春先除雪の支援についての詳しい内容は、23日の臨時議会で議決後、遅くない時期に明らかにされると思いますが、質問や疑問などがある方は木田庁舎農村振興課、または各区総合事務所にお聞きください。

大島区地域協議会、あさひ荘等の廃止認める

18日に開催された大島区地域協議会で、大島あさひ荘および大島大山広場の廃止を意見付きで認める答申をすることが決まりました。採決では全員一致でした。どちらの施設も長期にわたり利用されておらず、関係住民の間では、「何とかならないものか」という思いはありつつも、諦めが広がっていました。

この日の審議の中では、廃止について異論はなく、それぞれの施設について意見を付すことが提案されました。その結果、あさひ荘については、

「廃止にあたっては、これまでの地域住民の思い入れに心配りするとともに、国道253号沿線施設であるため、景観上の支障や風水害等による被災拡大に配慮し、構造物を可及的速やかに撤去してください」との意見が付けました。大山広場についても、前半のくだりはないものの、その後の部分はあさひ荘と同じ意見が付けられました。

これで、大島あさひ荘など2つの施設については、3月議会で廃止条例が提案されることが確実な情勢となりました。



【ツルマサキ】ニシキギ科の常緑つる性木本。漢字で「蔓柎」と書きます。先日、どういう植物かと言われ、調べました。まだ現物は見ていませんが、上の写真を見て、ニシキギの仲間の植物の実だと分かりました。ダイダイ色の実はニシキギ、マユミとそっくりですが、果皮の色が違います。花期は6月～7月で、淡い緑色の花を咲かせるとか。出会うのが楽しみです。写真は吉川区のHさん提供です。



はしづめ法一の
活動レポート

No.2094 2023.1.22

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hosei.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

農業関連の春先除雪、3月時は市が独自支援へ

上越市はこのほど、農業関連の春先除雪について新たな支援をしていくことを決め、23日に開催される臨時議会に関連経費を含んだ補正予算を提案します。

これまで春先除雪については、新潟県の緊急消雪促進対策事業を活用し、4月1日を基準日として、基準積雪深が100㌢以上のところを対象にしてきました。しかし、関係農家などから、「4月になってからの除雪では遅すぎる。もっと早くしてほしい」という声が強くなっていました。

今回、市は、現行の基準日に加え、新たに3月15日時点の基準日を設定することで、基準日以降3月末までの除雪支援を可能にしました。

新たに支援対象となるのは、3月15日の基準日に積雪深が180㌢以上のところ です。

育苗用地については、除雪作業着手時点の積雪深が150㌢未満のところでは基準事業費の上限額が10㌦あたり5万9000円、150㌢以上のところが9万6000円となっています。いずれも支援額はこの50%以内となります。

また、育苗用地までの耕作道の機械除雪については基準事業費が1kmあたり6万7000円で、支援額は100%以内となっています。

今回の改善は農業者の春先除雪支援を強化する重要な一歩です。関係地域の農家などととも春先除雪支援の改善を求めてきた者の一人として、大いに評価するものです。



春先除雪の支援についての詳しい内容は、23日の臨時議会で議決後、遅くない時期に明らかにされると思いますが、質問や疑問などがある方は木田庁舎農村振興課、または各区総合事務所にお聞きください。

吉川区地域協議会、ゆったりの郷酵素風呂で議論

19日に開催された吉川区地域協議会で、昨年の秋に市長から出された、「吉川ゆったりの郷の一部（酵素風呂）廃止について、地域住民の生活に支障はあるか」という諮問にたいする答申をどうするかをめぐって審議が行われました。

この審議は前回の協議会に続いて2度目ということでしたが、「利用者にとっては影響がある。

支障となると、どう考えたらいいのか」「利用者が減っている中では支障なしでもいいのではないのか」「発酵のまち上越、というなかで県内に3つしかない酵素風呂をなくすのはどうか」などの議論が延々と続きました。

最終的には、ゆったりの郷の今後の取組について付帯意見を付けて、「支障なし」と判断する答申を出すことで合意をしましたが、委員の皆さんは釈然としない様子でした。

そもそも、施設設備の廃止を諮問するときに、廃止の是非について直接問わずに、「地域住民への生活に支障がありますか」とやるのはおかしいのではないのでしょうか。改革が必要です。

【ツルマサキ】ニシキギ科の常緑つる性木本。漢字で「蔓柎」と書きます。先日、どういう植物かと言われ、調べました。まだ現物は見ていませんが、上の写真を見て、ニシキギの仲間の植物の実だと分かりました。ダイダイ色の実はニシキギ、マユミとそっくりですが、果皮の色が違います。花期は6月～7月で、淡い緑色の花を咲かせるとか。出会うのが楽しみです。写真は吉川区のHさん提供です。



【ツルマサキ】ニシキギ科の常緑つる性木本。漢字で「蔓柎」と書きます。先日、どういう植物かと言われ、調べました。まだ現物は見ていませんが、上の写真を見て、ニシキギの仲間の植物の実だと分かりました。ダイダイ色の実はニシキギ、マユミとそっくりですが、果皮の色が違います。花期は6月～7月で、淡い緑色の花を咲かせるとか。出会うのが楽しみです。写真は吉川区のHさん提供です。



はしづめ法一の活動レポート

No.2094 2023.1.22

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hosei1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七四一回

花手毬

えっ、仏間の柱にもあるんだ。玄関の正面にも脇にもある。廊下は一階だけでなく二階の「なげし」にもずらり……。驚きましたね、Aさんの家の中には色紙で作った花手毬（はなでまり）が所狭しと並んでいたのです。

これまで、Aさんについては、囲碁と自転車乗りが趣味で、折り紙のようなことにはいっさい手を出さない人だと思っていました。

実際にはそうではなく、Aさんは五〇年も前から、折り紙が趣味だったのです。最初はツルや紙飛行機をつくっていましたが、それが動物や建造物などへと、どんどん広がっていきました。もともと研究熱心なところがあったので、折り紙への関心は作るたびに強まり、読んだ折り紙の本は四〇冊から五〇冊にもなりました。

折り紙をはじめたのは子育て時代から。長女のYさんが生まれてから、最初は歌と一緒に歌って楽しんでいたらいいのですが、ふとしたことから折り紙をするようになりなりました。

始めたばかりの頃は、ツルを折っていたことですが、子どもさんの遊び相手をつとめるようになってからは、紙飛行機づくりに夢中になりました。

Aさんは、「ツルは難しいけど、紙飛行機なら誰でも作れる。飛ばすと皆が喜び」と言いますが、Aさんが持ち出してきた紙飛行機を見て、なるほどと思いました。

紙飛行機の形はジェット機のような形ではなく、もっとシンプルなものだったのです。三角柱のようなもの、掃除のときに使うごみ入れのような四角なものまであり、形はどちらかといつと不恰好（ぶかっこ）です。でも、飛ばすと、じつによく飛ぶのです。

私も、勧められて飛ばしてみました。これまで私が作ったどの紙飛行機よりも勢

いよく飛びました。おそらく広い部屋で飛ばせば、「こんなにも遠くへ飛ぶのか」と思ってしまうくらい飛んだことでしょう。

いま、Aさんの家で一番多くある折り紙作品は花手毬です。花の種類は、ツバキ、バラ、ヒガンバナ、モクレンなど五〇種余りで、家では八〇個ほど飾っているとのことでした。

驚いたのは、花の特徴がじつに良く出ていることです。例えば沖縄のハイビスカス、ラッパ状に開いた花、真ん中で突出した花柱（かちゅう）がよくわかります。また、キクは花弁が放射状に並びますが、これも見事に作られていました。

Aさんは、定年退職後、この花手毬を作るようになりなりました。「四角の折り紙で、しかも切らないで花らしく見えるようにするのは難しい」とAさんは言います。でも花手毬をつくる技術は進化し、いまでは柿崎地区公民館や上下浜郵便局などにも作品を飾っていただいているとのことでした。

花手毬のほか目立ったのはサッカーボールの折り紙です。黒と白の厚紙で作成された作品は、花手毬と同じ基本構造で作られていて、がっちりとしています。

このサッカーボール作品に素敵なエピソードがあることを知りました。二〇〇二年の日韓共同開催のワールドカップの際、高校生とともに折り紙で作ったサッカーボール作品を一〇個ほどボランティアの人を通じてクローチアの選手に贈ったというのです。作品は、「日本の伝統文化の贈り物」として喜ばれ、帰りのバスに乗り込む選手たちが折り紙ボールを手にしていて、子がテレビでも放映されたとか。

作品紹介の時はずっと笑顔だったAさん、「ごんごんやると、きちんと折れる。だんだんうまくなるんですよ」と言いました。花手毬などの作品作りが、楽しくてたまらないのでしょうか。

消防出初式に参加

市消防団の出初式が8日行われ、私は市議会災害対策特別委員会を代表して出席してきました。

式典では、団長の挨拶に続いて中川市長が訓示、その後、上越市消防表彰、消防団長特別表彰が行われました。

感謝状は金子秀和さんなど11名に、功績章は田中主志さんなど86名



に、勤続章が笠原謙司さんなど149名におくられました。消防パレードも行われました。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことでした。

	1月11日(水)	1月18日(水)
上越南消防署	0.057	0.057
上越北消防署	0.047	0.053
新井消防署	0.047	0.053
頸北消防署	0.040	0.050
頸南消防署	0.063	0.067
東頸消防署	0.037	0.040
名立分遣所	0.060	0.060
高士分遣所	0.053	0.053

久しぶりに地元老人会の集いへ



12日、地元の老人会の集いに久しぶりに参加してきました。最近はずいぶん出しの時くらいしか会わない人たちと風呂に入り、おしゃべりもし、歌も歌いました。

参加者のみなさんの話と笑顔が良かったです。市政への注文についても聞くことができました。